

第1回 湖西市バス運行評価改善委員会 会議録

日 時：令和2年11月6日（金）10時00分～

場 所：湖西市市民活動センター 2F 大会議室

出席者：15人

委員長	杉木 直	豊橋技術科学大学 准教授
副委員長	板倉 福男	湖西市自治会連合会
委員	杉浦 徹衛（欠席）	湖西市老人クラブ連合会
委員	安間 明美	湖西市社会福祉協議会事務局
委員	浮海 恵理	湖西市商工会
委員	近藤 うた子	新居町商工会
委員	河邊 登	公募市民
委員	藤井 早苗	公募市民
オブザーバー	紅林 哲	静岡県地域交通課
オブザーバー	高邑 和樹	湖西市役所学校教育課
事務局	安間 祐輔	遠州鉄道(株)運輸業務部
事務局	榊原 正之	遠州タクシー(株)
事務局	良知 正規	浜松バス(株)
事務局	北見 浩二	湖西市 産業部 産業振興課長
事務局	馬淵 豪	湖西市 産業部 産業振興課 課長代理
事務局	小笠原 大悟	湖西市 産業部 産業振興課 公共交通係

配付資料： 会議次第

資料1：今年度の湖西市バス運行評価改善委員会の進め方

資料2：コーちゃんバスの運行概要について

資料3：事業報告について（令和元年10月～令和2年9月）

資料4：湖西市バス運行評価改善委員会 評価一覧

別紙1：コーちゃんバス利用者実績（R1、R2比較）

別紙2：妥当性、コメント、意見欄の記入の仕方

1 開会

2 委員長挨拶

当委員会は、湖西市の公共交通について引き続き改善を図りながらより良いものにしていくための委員会となります。委員のみなさまの知見より活発なご意見をいただきながら円滑に進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 今年度の湖西市バス運行評価改善委員会の進め方について

<事務局>

- 資料説明（資料1）

- 特段の意見なし

(2) コーちゃんバスの運行概要について

<事務局>

- 資料説明（資料2）

- 特段の意見なし

(3) 今年度の事業報告について

<事務局>

- 資料説明（資料3）

<委員>

- バス停オーナー制度とはどのような制度になりますか。

<事務局>

- 各バス停のオーナーになっていただき、使用料をいただくかわりにバス停名を企業名や病院名にする制度となります。

<委員>

- コロナの影響で利用者数が減ったとのことですが、2点原因があると考えています。1点目は、買い物など週に2回行っていた方が1回にするなどです。2点目は、そもそも大勢の人が乗車するバスを避けて他の手段に切り替えたのではないかというものです。このような方々に向けてバス車内でコロナ対策をしているなど周知、啓発はどのようなことを行いましたか。

また、片道定期券の発行について、子どもの通学で行きはバスで通うけど、帰りは親が迎えに行

く方などの需要がありそうだということで発行したかと思います。しかし、中高生の親が知らないという声を聞きます。周知をすることで利用者が掘り起こせると思うので、市の LINE で周知するなどした方が良いと思います。また、内容に口コミを載せるなどすることで便利さなどがより伝わると思います。

<事務局>

- コロナ時の啓発活動についてですが、運行事業者による対策は行われておりましたので、車内での啓発はできていたかと思いますが、市民向けへの発信はしておりませんでした。片道定期券の件も含めまして LINE の活用などを含めて次年度の改善策に活かしていきたいと思います。

<委員>

- 子育て世帯からすると LINE は見ますし、LINE での情報提供は助かります。バスは乗らないと見れないため、片道乗車券などの情報は、使用する親からすると非常に助かりますし、情報発信の手段として重要であると思います。

<委員>

- バスロケーションシステムについてどの程度のものを検討しているのか教えてください。

<事務局>

- バス停での表示になると通信費などの維持費が非常にかかります。どの程度の情報が利用者から求められているのかを見極めながら検討をする必要があると考えています。多くの経費がかかるため、詳細な検討まで至っていない状況です。

<委員長>

- 現状、スマホなどで走行位置などの情報発信していくものが、経費等の面からも主流になっていると思います。バス停にデジタルサイネージ等を設置するとなると設置だけで多くの経費がかかってしまいます。一方でスマホ等を持っていない人には情報発信できないなどのデメリットもあるため、ニーズと合わせて検討することが大切であると思います。

<委員長>

- 事業報告の指標について利用者数と1日当たりの利用者数が、ほぼ同じ内容の指標になると思われます。便数の増減に合わせてわかる指標などの追加について検討をお願いします。

<委員長>

- いくつかの評価項目で見直しの行為自体は今回の評価期間に行っており、結果がそれ以降というものがありますが、その考え方はどのようにすれば良いでしょうか。

<事務局>

- 見直しの行為の中には、内容の検討や公共交通会議での協議なども含まれますので、過程も評価に含めて市の自己評価を行っております。

<委員長>

- 公共交通マップについては、昨年度作成したものへの評価と今年度の作成したものがあるが、どのような考え方で良いでしょうか。

<事務局>

- 今年度作成したマップについても、9月以前に検討をしている話になりますのでこれも含めて評価をしていただければと思います。

(4) 湖西市バス運行評価改善委員会 一次評価書

<事務局>

- 資料説明（資料4）

<委員>

- デマンドの知波田地区の実証実験について登録者数が伸び悩んでいるため本格運行を1年延長したとのことですが、具体的に啓発で何を行ったのかを教えてください。

<事務局>

- 各地区の自治会活動の際に伺って登録の呼びかけを行ってまいりました。また、今年度は民生委員の方をお願いをして必要と思われる方に直接お話をさせていただき記入をしていただきましたところ、40世帯以上は増加しております。

<委員>

- それを来年まで継続してどの程度の増加を見込んでいますか。また、実証実験を行うにあたって自治会からの要望も大きかったと思いますが、自治会との連携はとっていますか。

<事務局>

- 自治会との連携についてですが、知波田地区は毎月定例会がありますのでそちらに伺って啓発や情報共有を行ってまいりました。コロナ禍の現状もあり、会って話をする機会を得られなかった点もありました。10月以降は、徐々に活動も再開されているため、顔を合わせて説明し、登録用紙を記載していただくことで目標の登録世帯数15%を達成できると考えています。

<委員長>

- バスの日イベントの緑化フェア中止に伴う啓発活動の中止は「B」評価であり、コロナ禍の影響もあるため理解できるが、モビリティマネジメントの実施については、「C」評価となっており若干厳しい評価と思われる。この違いについて教えてください。

<事務局>

- モビリティマネジメントは、啓発方法について改善の余地があったのではないかという点より「C」としております。

<委員長>

- 乗り方教室以外の啓発方法を検討すべきだったのではないかという点で厳しい評価をしているということでしょうか。

<事務局>

- そのとおりです。

閉会